

4. 海砂利採取に当たっての環境保全に対する配慮

瀬戸内海海砂利採取環境影響評価調査について(環境省)

瀬戸内海における海砂利採取の実態を把握するとともに、長年にわたる海砂利採取が水質・底質、地形、生態系をはじめとする瀬戸内海の環境に及ぼしてきた影響を明らかにすることを目的に平成6年から平成13年にかけて実施。

長年の海砂利採取により、砂堆や砂州が完全に消失し、推進が著しく増大したところがあること。
海底が礫化している砂利採取区域が存在すること。
砂利採取船から排出される余水については、潮流の強弱や操業状態により拡散の範囲が異なり、その濁りは比較的狭い範囲で自然界のレベルまで低下すると考えられること。

余水排出による水質(pH, COD, 窒素・燐等)の変化は、排水口周辺の狭い海域にのみ認められること。
底生生物については、現在の採取区域を中心とした範囲で生物種や個体数の数量等に差異が見られ、海砂利採取の影響が認められること。また、その影響は、採取の規模や方法等により差異があり、砂層が保持されていれば、一定の回復が進むものと考えられること。

瀬戸内海の多獲性魚類の代表であり砂地を好むイカナゴについては、海砂利採取による生息地減少が、その海域のイカナゴの減少の最も大きな要因と考えられること。

魚食性魚種の餌となるこのイカナゴの減少が、周辺海域の生態系にも影響を及ぼすものと考えられること。

などが考察された。

代替骨材の研究開発の取り組みについて(国土交通省)

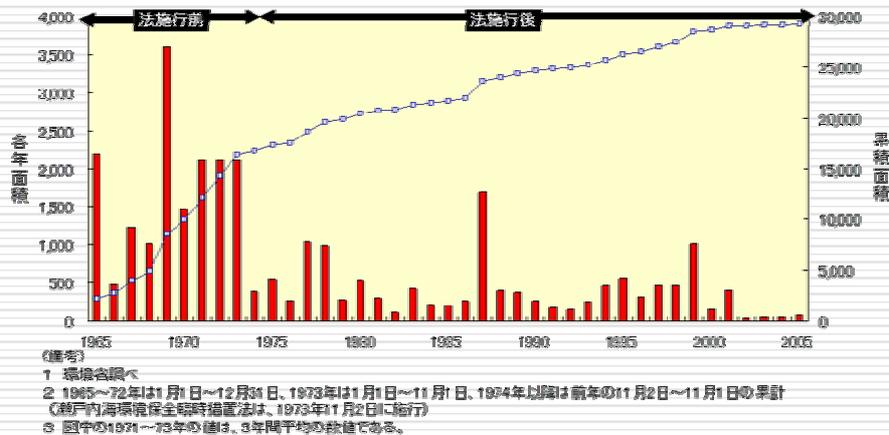
コンクリート用細骨材への砕砂の有効利用技術、現在の骨材品質規格を一部満足しない規格外細骨材の有効利用技術の検討等が調査が実施されている。

中央環境審議会 第4回瀬戸内海部会

5. 埋立てに当たっての環境保全に対する配慮

瀬戸内海の埋立ての状況

瀬戸内海における埋立免許面積の推移



中央環境審議会 第4回瀬戸内海部会